



発行 宮崎県立高鍋高等学校 同窓会

宮崎県児湯郡高鍋町 大字北高鍋 4 2 6 2 TEL 0983・23・0005 FAX 0983・23・5096 URL http://www.narumigaoka.jp/

# 母校を想う

高鍋高校同窓会「鳴海ヶ丘会」会長 増田 秀文



「鳴海ヶ丘会」会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のご活躍のこととお喜び申し上げます。また常日頃より同窓会活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成26年、恒例のOB祭は「緑（照らせ未来を）」をテーマに、古川 誠実行委員長のもと平成3年卒業の皆様が担当されました。

8月15日に、宮崎座論梅GCにてOB祭ゴルフコンペ、8月16日には「鳴海ヶ丘会」総会に引き続きOB祭が開催されました。「ちきんなんばん」「アムール」のオープニングイベントの後、野村克也氏の「夢を持つことの大切さ」というテーマにて記念講演が行われ、ウィットに富んだテンポのよい話に多くの方々が魅了されたようです。

多くの同窓生の参加を頂き盛大に開催され、また一つ、OB祭の歴史が生まれました。実行委員の皆様方の母校への熱い思いを強く感じ、改めて感謝申し上げます。

総会におきまして、高鍋高校の校名変更について提案をさせていただきます。高鍋明倫堂高校に改名したいというものです。これは誇りある「高鍋高校」の伝統を確固たるものにするにとともに、未来への更なる飛躍を願う、さらに力強い母校に発展して

欲しいという願いをこめたもので、会員皆様のご賛同が得られればと考えています。今総会におきまして、様々なご意見を賜りました。母校を想う真剣なご意見を大変うれしく思います。これからも母校発展の為に会員皆様とともに進んでいきたいと考えています。

また、現在「鳴海ヶ丘会」では奨学金制度が設立され、今年度3人目の奨学金が誕生いたしました。その基金は「明倫奨学金」として有志の方々の寄附によって賄われるものであり、今年度も、多くの有志の方々をはじめ、各支部同窓会や還暦を迎えられる昭和48年度卒の方々、またOB祭実行委員会の方々より寄附をいただきました。本当にありがとうございます。

厚く御礼申し上げます。奨学生より、充実した大学生生活の報告とともに、奨学金に対する感謝の言葉を頂き、大変嬉しく思うと同時に、彼等がしっかりと学生生活を送り、立派な社会人となり地域や母校の発展の為に活躍してくれることを心から期待しています。

これからも同窓会会員相互の親睦はもとより、学校、地域に役立つ同窓会として活動をしてまいりたいと考えています。同窓会会員皆様方の更なるご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

## 平成27年度OB祭について

事務局長 上妻 信一

平成27年度OB祭を担当します平成24年卒業生の活動状況について報告いたします。

私たちは、昨年11月に準備委員会を発足し、組織体制等について協議を重ね、昨年10月に実行委員会を正式に設立いたしました。

その後、県内外の各支部総会に出席し、先輩方の母校への強い愛校心と鳴海ヶ丘会の絆の深さに感銘を受けるとともに、いたした大変多くの温かい激励に役員一同決意を新たにいたしました。

また、1月2日に学年同窓会を開催し、同窓生や恩師の先生方との懐かしい再会を楽しみながらOB祭に向けた結束を固めました。

平成27年度OB祭のテーマは「道標(みちしるべ)」。一歩、歩みを進めよう。

現在の高鍋高校の歴史と伝統は、多くの先輩方が崇高な教育理念を道標として、様々な分野で活躍され築き上げてきた歩みそのものです。卒業し今や社会の中核を担う世代となった私たちも、先輩方のように後輩の道標となるよう、新たな一歩を踏み出して、歴史と伝統を受け継ぐようなOB祭にしていきたいと考えています。

8月のOB祭の成功に向け、同窓生一丸となって精一杯取り組んでまいりますので、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 平成27年度高鍋高校OB祭実行委員会役員名簿

番号	役職	氏名
1	実行委員長	中村 昭人
2	副実行委員長	寺村 恵美
3	事務局長	上妻 信一
4	事業推進局長	大重 智郎
5	事業運営局長	三枝 敏郎
6	会計部会長	押川 博典
7	総務部会長	武田 博史
8	クラス役員部会長	長野長一郎
9	販売部会長	永野 百香
10	広報部会長	西村 佳子
11	企画運営部会長	永友 環
12	ゴルフ部会長	四位 真吾
13	懇親部会長	永友 公也

## 同窓会育英会会長賞表彰者

- 普通科 内之八重友典 (303)
  - 内村 絵梨 (303)
  - 小田菜々美 (306)
  - 生活情報科 児玉有紀奈 (307)
- おめでとうございます。これからもますます頑張ってください。

## 米沢興譲館高校との学校間交流

生徒会担当 森田 貴文

米沢興譲館高校との学校間交流が10月22日、24日の3日間にわたり実施されました。今年度は本校が迎える側で、最高のおもてなしをするため生徒会執行部を中心に準備をすすめました。初日、訪問した2名の先生と6名の生徒を、全校生徒が体育館前に集合して迎え、歓迎式典では本校生徒が興譲館高校の校歌を斉唱、大変感激していただきました。2日目は日南海岸方面を観光した後、高鍋町資料館及び秋月家墓所を訪れ、この交流の原点である秋月種茂公と上杉鷹山公について学び、2人により導かれた出会いであることに運命を感じました。3日目はクラス交流で、興譲館高校の生徒が山形や米沢のことを紹介してくれ、クイズやダンスパフォーマンスなど各クラスで大いに盛り上がりました。



## 2015年度新課程大学入試センター試験を終えて

高鍋高校進路指導主事

那須 雅博

1月17日、18日に大学入試センター試験が実施された。本校からは131名の生徒が受験した。地歴が2パターン、理科が4パターンの受験型があり、それぞれに対応するために学校単独で、同一会場での受験ができなかった。宮崎市内の4大学で分かれての受験であった。会場こそ違ったが、気持ちは全員一丸となつて、最後まで粘り強く受験できた。昨年度より易化したのは国語と現社。新課程の文系が受験した理科基礎は標準。地歴はほぼ全科目で難化。理系のほとんどの生徒が受験する数学II Bは全国平均が4割、理科専門は全て難化するなど、理系の生徒には厳しい試験であった。今年度は数学と理科が新課程入試の先行実施であったが、次年度は全ての教

科が新課程入試となる。新課程は「脱ゆとり」の方向性をもったカリキュラムが実施される。そのため、学習量と内容が増える。当然、センター試験の問題もそれを意識した内容になる。次年度は全教科とも新課程に対応した問題になるため、学習内容に対する深い理解が必要である。3年生は今、これから大学別に行われる個別学力試験に向けて、懸命にがんばっている。1、2年生のみならず、今授業でやっていることが、そのまま試験に出題されることを意識するとともに、教材を深く理解することを心がけて、学力向上に邁進してもらいたい。その後、2年後のそれぞれにおける進路実現を心から願っている。志望校を母校にしよう。

## 探究科学コース 課題研究発表会を終えて

探究科学コース主任 三浦 章子

平成24年度に1期生が入学しスタートした「探究科学コース」。彼らが2年に進級し、1年間かけて取り組んだ課題研究「探究」の発表会が、12月20日(土)に本校体育館にて100名を超す参観者をお迎えし行われた。文理様々なテーマに基づき、多角的な視点から調査・研究を重ねた結果を、ポスターセッションの形式で発表した。「ALTに日本語を教えよう」といった語学やコミュニケーションを扱ったものから、数学的知識を生かした普段の生活に向けた「日常にひそむ黄金比」、また物理の授業で扱った内容を発展させ、プレゼンテーションの中で簡易実験を行いつつ発表された「自作スターリングエンジン」など発表された。自作スターリングエンジンによる熱効率の分析など、多岐にわたった。共同研究として「ナメクジから農作物を守る」を発表した田中・松井班は、ナメクジ採集の苦労、さらに調査結果が先行研究と違っていたことなど、貴重な経験をしたと感想を述べている。こうした経験が探究科学コースの生徒達にとって、今後の進路実現や自己実現の礎になると確信している。



## ラグビー全国大会に出場して

高鍋高等学校ラグビー部監督 榎室 秀幸

第94回全国高校ラグビー大会に出場した際にはたくさんのご支援・ご援助を頂いたことを深く感謝いたします。春の時点で、県内では圧倒的に強いチーム出場は確実だと思われていました。そんなプレッシャーの中で、3年生を中心に選手達は己を信じ、自分達のプレーを貫き通して全国大会への切符を手に入れました。私にとっては人生初の花園出場です。この舞台に連れて来てくれた選手に心から感謝しています。初戦は開会式直後の第1試合でした。Wアップの時間も非常に短くあつたという間にキックオフの時間を迎えました。相手は三重県代表の朝明高校。前半の入りで失敗し、立て続けにトライを2本奪われましたが、選手は落ちついていました。時間が経つごとに高鍋のテンポに持ち込み、競りながらも勝利することが出来ました。応援席から届いた大きな声援が選手とベンチの力になりました。応援して下さった関西支部同窓会、ならびに県人会、学校関係者、ラグビー関係者、そして保護者の皆様ありがとうございました。特に野球部の諸君、盛り上げてくれた本当に感謝しています。2回戦の相手は、高鍋とチームスタイルの似た群馬県代表の明和県央高校でした。どちらが勝つてもおかしくないようなゲーム展開でしたが、チャンスをものに出れなかったこととDF力の差で敗北を喫しました。全国ベスト16の目標を叶えることは出来ませんでした。3年生全員が試合に出場し花園の地でプレー出来たことは幸せ





# 支部総会報告

## 福岡支部総会報告

福岡支部事務局長 原 誠子

福岡支部総会は11月29日(土)にゲイツビル内のFUCIで開催しました。井本新支部長のもとで初の総会、場所の選定等を役員が重役を兼ねての開催でした。増田会長をはじめ富田副会長、早日渡校長、猪股事務局長にもご出席いただき有難うございました。

チーム井本として前支部長よりバトンを受けた新支部長の冒頭の挨拶は、高鍋高校への熱い思いからの始まりとなりました。今回は、明倫奨学生の馬渡君(九州大学)に将来への思いを語ってもらい、本当に良かったです。自分を照らしあわせると、あの頃に彼のような志があったかと自問自答する次第です。その後懇親会は、元プロ野球選手の手田親興さんにも仕事の合間にご出席いただき、ビンゴゲーム等多く盛り上がり無事に終了しました。参加者は54名で全体としては前回より増加しましたが、課題も多々ありました。今後支部の打合せにて、良かった点や悪かった点など精査して次回総会への課題にしたいと考えています。魅力ある福岡支部を目指し今後も役員一丸となり努力しますので、更なるご協力及びご支援を賜りますよう今後も宜しくお願いします。

## 名古屋支部総会報告

名古屋支部事務局長 福本 秀和



平成26年度の名古屋支部総会を、11月15日アパホテル名古屋錦店に32名の参加で行いました。当日は高鍋より多賀鳴海ヶ丘会副会長・早日渡校長・小西事務局長・OB祭実行委員の方々はじめ、在京・関西からも

ご出席いただきました。支部の活動報告として、①中部地区の名簿見直しにより250名へ確認状を送付した結果、約40%の100名に連絡が付くことを確認したこと、

②H3年卒杉本周君等のお話で、春光を浴びながら「愛・地球博記念公園」の芝生の上で、家族ぐるみカレパティーを実施したこと等が報告されました。

懇親会では、OB祭実行委員の方々6名から、「縁々照らせ未来を」の今年の反省と、来年度「道しるべ」に向けての活動について、意欲的な発表がありました。又初参加の方をはじめ全員ひとりひとりが近況報告を行い、大いに盛り上がりました。二次会は例年通りお楽しみで、霧島酒造提供の焼酎を頂きながら、OB祭実行委員の活躍のもと遅くまで語り合いを続けることが出来ました。

これからは全ご参加頂きまして皆様のご厚情と感謝致しますと共、来年度も更に名古屋支部を盛り上げて行けるよう頑張りますので、ご支援の程宜しくお願ひ致します。



## 宮崎地区支部合同同窓会報告

宮崎地区支部長 緒方 克則

宮崎地区は、宮崎地区支部(緒方克則支部長)、宮崎県庁支部(川越雅文支部長)、宮崎市役所支部(宮本真理支部長)が合同で母校の支援と卒業生相互の世代を超えた交流、情報交換等を目的に、平成19年から宮崎地区支部合同同窓会を開催しています。また、寄付金募集など母校の支援事業に取り組み、実績を上げてきました。

宮崎地区同窓会は、毎年11月の第二金曜日に開催しており、今回は平成26年11月14日(金)ニューウエルシティ宮崎で合計97名が参加して開催しました。来賓として増田同窓会長、早日渡校長、津江同窓会事務局次長にご出席いただき、挨拶や学校紹介DVDで母校の現状や課題等を詳しくご説明いただき、出席者は、母校の取り組みや

生徒達の躍動する姿を見ながら在りし日の自分にかえり思い出話に花を咲かせる楽しいひと時を過ごしていました。

また、例年どおりOB祭実行委員会の新役員にも多数出席していただき、各テーブルを回って今年のOB祭の報告と来年の取り組みをアピールするなど大いに会を盛り上げてくれました。

会は進み、出席者が持ち寄った景品を目的に大抽選会が始まりました。会場は、悲喜こももとの声飛び交っていました。そして、満を持して登場した破帽、学生服姿の本会応援団長下川君の音頭で、出席者一同は高鍋高校生徒にかえって、肩を組み大声で校歌、応援歌を合唱しました。最後は、飛田宮崎県教育長がユーモラスに会を締めくくり、来年の再会を約束して閉会しました。

これからは、母校と宮崎地区同窓会がますます繁栄していくよう頑張りますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



## 高鍋支部総会報告

高鍋支部長 山本 邦紘

本年度の高鍋支部の総会も例年通り総会と講演会を11月20日高鍋美術館で実施しました。

講演会では高鍋高校の卒業生であり、昨年の3月まで高鍋西中学校の校長をされ、現在高鍋教育長の島埜内遵先生にお話ししました。先生は高校時代バレーボールをされておられ、先生になってもバレーボールや柔道の顧問として子供たちと汗を流された熱血漢の先生であつたようです。

西中学校時代に手書きの学校便りを出され、今も教育長でありながら手書きの町民向けの便りを出されています。この便りを読むだけで先生の人柄と子供たちへの教え方がしっかりと伝わってきます。講演では先生をしてきて子供たちに本当に教えてもらったこと、自分が良かれと思っていたことも本当に

子供たちのためになったのかと常に悩みながら先生をさせて頂いたこと、教え子たちが成長していくのが本当に嬉しいと幾つかの例をあげての講演でした。

講演を聞いている人には涙ぐんでいる人が多くいました。先生の益々の熱気溢れるご指導を今後も期待し、お礼に代えさせて頂きます。島埜内先生ありがとうございました。

残念ながら本年も60名程度の人にしか集まらなかつたところでしたが、私の不徳の致すところでしょうか、地元に住んでいるかと思つてしまいが逆で薄いかなど思つてしまいます。評議員を始め卒業生のご理解とご協力をお願いします。

## 川南支部総会報告

川南支部長 宮崎 吉敏

平成26年12月7日、17時30分から、プライタルホール竹の屋において、高鍋鳴海ヶ丘会川南支部交流会を開催致しました。ご来賓に、川南町長日高昭彦氏、副町長山村晴雄氏、教育長木村誠氏、鳴海ヶ丘会顧問田格十氏、副会長橋口清和氏、高鍋高校校長早日渡志郎氏、事務局次長津江政彦氏をお迎えし、総勢68名の参加者でした。

支部長あいさつの後、日高町長、橋口副会長、早日渡校長ご来賓のあいさつをいただき、川南支部より、同窓会育英会奨学金へ5万円寄付金を贈呈しました。

引き続き、宮崎県教育委員会教育長飛田洋氏による「心優しき名も無き英雄を育てたい」と題して講演を頂きました。教育者として、時には厳しく、ときには優しく導き、自分で考え、自分で行動できる人に育ててほしい。自分の人生目標を定め、チャレンジし、目的を達成し、一人一人が輝く人になつてほしいと話されました。

講演が終わって、本年度、次年度のOB祭実行委員より、本支部と関係のあいさつがあり、いよいよお待ちかねの懇親会のスタートです。この世の中にタイムマシーンがあるとすれば、それは同窓会です。皆さん、一瞬にして、高校時代に帰り、楽しい思い出や現在の状況報告をおいしに盛り上がりましょう。お楽しみ抽選会の後に、皆さんで元気に高鍋高校校歌斉唱を行い、又の再会を誓い終了致しました。

## 部活動実績

大会名	競技・部名	個人 or 団体	競技種目	成績	学年	氏名	
平成26年度第41回宮崎県高等学校総合体育大会ラグビーフットボール秋季大会	ラグビー部	団体		優勝			
第94回全国高等学校ラグビーフットボール大会宮崎県予選							
平成26年度宮崎県高等学校新入体育大会	ホッケー部	団体		優勝			
平成26年度宮崎県高等学校新入体育大会	ボート部	個人	男子シングルスカル	第1位	2	兒玉 紘明	
		個人	女子シングルスカル	第1位	2	松島 美奈	
		団体	男子舵手付フォードルブル	第1位			
		団体	男子総合優勝	第1位			
平成26年度東北高校生バレーボール秋季大会	女子バレーボール部	団体		優勝			
第13回児湯総合バスケットボール選手権大会	男子バスケットボール部	団体		準優勝	2		
平成26年度宮崎県高等学校新入体育大会剣道競技大会	剣道部	個人	女子個人	第2位	2	米良 加奈子	
第36回宮崎県高等学校総合文化祭	吹奏楽部	団体		優良賞			
		団体	ビデオメッセージ部門	第2位			
	放送部	団体		オーディオビジュアル部門	第2位		
		個人			金賞	1	田中 優衣
	書道部	個人			銅賞	1	柳 楓果
		個人			優秀賞	2	稲本 皆
		個人			優秀賞	2	吉岡 涼子
		個人			優秀賞	2	赤木 萌華
		個人			奨励賞	2	佐坂 和音
		個人					
	文芸部	団体		詩のボクシング団体戦	準優勝		
		団体		文芸部誌部門	最優秀賞		
個人			俳句部門	優秀賞	3	早田 菜里香	
個人			短歌部門	最優秀賞	3	溝口 愛希	
美術部	個人		散文部門	奨励賞	3	溝口 愛希	
	個人			特選(全国大会選抜賞)	1	河野 宏美	
	個人			奨励賞	2	篠原 優花	
	個人			奨励賞	1	兒玉 侑梨	
青空文庫 有名小説表紙絵コンテスト	美術部	個人		入選	2	矢野 綾香	
平成26年度児湯地区委身作品コンクール	美術部	個人		銀賞	3	橋本 千鶴	
		個人	平面構成部門	最優秀賞	3	原 鮎美	
平成26年度宮崎県高等学校美術技術講習・コンクール	美術部	個人	風景部門	優秀賞	2	伊藤 拓馬	
		個人	石膏初級部門	優秀賞	1	河野 宏美	
第37回NHK杯宮崎県高等学校新人放送コンテスト	放送部	団体	ラジオ部門	第3位			
第35回宮崎県高等学校総合文化祭	音楽部	団体	合唱部門	県高文祭優秀賞(全国推薦)			
第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会	文芸部	個人	文芸部誌部門	全国大会選抜賞	3	橋口 梨	
		個人	詩部門	全国大会選抜賞	3	早田 菜里香	
		個人	短歌部門	全国大会選抜賞	3	溝口 愛希	
第41回宮崎県高等学校家庭クラブ研究発表大会	家庭クラブ	個人		優秀賞	2	間 凜紗	

## 明倫奨学金報告とお礼について

同窓会事務局長 猪股 司

明倫奨学金に多くの有志の方々より寄付を賜り、誠にありがとうございます。この奨学金制度は皆様の寄付金によって賄われております。どうか今後とも変わらぬ御支援のほどお願い申し上げます。

昭和48年卒業生の方々より寄付をいただきました。



## 平成26年度明倫奨学金寄付者

関西同窓会、還暦同窓会(昭和48年卒業生一同)、ほとくり会、川南支部同窓会 敬称略

※寄付者の公表は、同窓会支部、OB祭実行委員会、卒業生一同様に限らせて頂いております。企業及び個人の寄付者の公表は行っておりません。

## なんきんはぜ

26年振りに「沈黙の威々儀を現じて背筋を正し」と正姿朗誦句を聞き、当時と全く変わらない音の響きに感動を覚えた。母校勤務となり、最初の印象は「鍋校生は凄じ」であった。様々な場面における生徒の反応の良さには正直驚いた。「この意識の高さの起源は何だろうか」と真剣に考えた。明らかに、これまで勤務した学校の生徒にはなかったものが、鍋校生には存在する。これまでも鍋校生を指導されてきた先生方の賜でもある。自分の二人の子どもの鍋高にと、転校を決めた。校舎を歩くと当然ながら自分の高校時代の思い出が甦る。体育館やグラウンド等は新しく生まれ変わったに違いないが、その他は殆どがそのまま、実に懐かしい。

入学して自己紹介をする際「甲子園に行くために頑張ります」と挨拶し、当時の担任の大場先生に

「ならん」とげんこつをされた事、早朝からのランニング、部室掃除、徹し練習、泥だらけのユニホームの洗濯、テスト前の猛勉強等々、今となっては全てが懐かしく財産である。今の後輩ほどのくらい頑張っているのだろうか。昔と比べると、後輩は、「後輩よ、まだまだやるるだろ」といふのが私の正直な気持ちである。私は、自分たちと同じ気持ちで、同じ経験をしてきている後輩が本当に可愛い。それが故に心を鬼にして徹底的に鍛えあげたい。

山本 一夫